

第1 計画策定の趣旨

平成24年(2012年)に策定した第7期計画の10年間で国や地方を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化しています。特に急速なグローバル^{*}化やスマートフォンの普及、また人工知能など高度情報化の進展は、わたしたちのライフスタイルや価値観、コミュニティの在り方を多様化し、急速に変化させています。

今後、地方においてもさらなる産業構造や働き方の変化、教育や学びのスタイルの変化、自動運転化に伴う地域交通や人々の移動の変化、医療や福祉サービスの変化、キャッシュレス^{*}化に伴う金融インフラの変化など、地域の暮らしに関わる様々な分野で変化が顕在化していくと予想されます。

これまで経験してきた少子高齢化や人口減少の進展に対応しながら、急速に変化する未来に向けて、これまで以上に、町民と行政が協働し、新しい時代の変化や課題に柔軟に対応することで、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めることが求められています。

社会情勢などの変化に対応しながら、町自治基本条例に則り、町政を総合的かつ計画的なまちづくりの推進を図るために、令和4年度(2022年度)から10年間のまちづくりの方針となる、「第8期中頓別町総合計画」を策定します。また、デジタル・トランスフォーメーション^{*}関連の第1歩として今回の計画本編はウェブサイトを構築し、スマートフォン等で詳細を閲覧していただく仕組みを導入し、小学生からでも馴染みやすく手軽に計画を見てもらえるデザインとします。

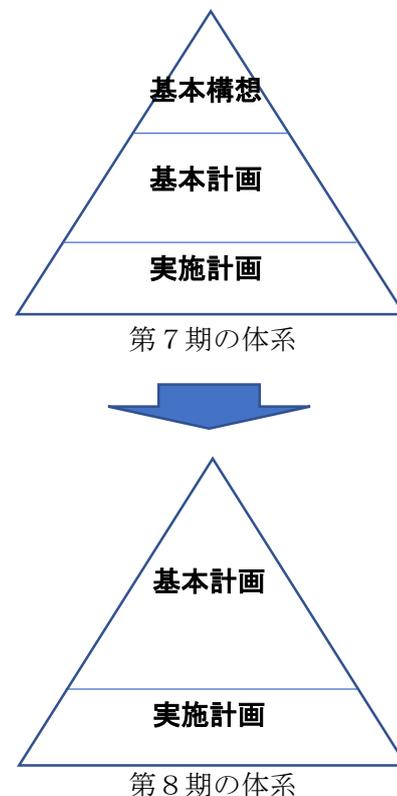
1. 計画の構成

総合計画はまちづくりをするための最上位計画と位置づけ、行政の運営にあたらなければなりません。重要な取り組みを展開

する際には実施計画に連動する行動計画をまとめるなど、適宜定めることとします。

地方自治法の一部を改正する法律(平成23年法律第35号平成23年8月1日施行)により、基本構想の策定を義務付けしていた規定が廃止され、各自治体の判断により計画を構成することとなりました。

そこで、平成23年3月に制定された「中頓別町自治基本条例」を基本に、町民、議会及び行政が連携して、第8期中頓別町総合計画を定めることとし、構成は基本構想と基本計画を一体化して、「基本計画」及び「実施計画」で構成します。



2. 基本計画

将来像やまちづくりの基本的考え方等を受けて、それを実現するために必要な具体的な施策を明らかにするものです。

- ・まちの将来像
- ・人口フレーム^{*}
- ・まちづくりの基本的考え方
- ・政策目標
- ・町民アイデア「7つのアクション」

農業高校ができたこの頃、家の数は1,351戸、人口は7,492人だった。農業は、1956（昭和31）年頃から牛を中心とした「酪農」に力を入れるようになる。

- ▶ 1975（昭和50）年頃になると、養護老人ホームや町民センターが建てられ、図書館や郷土資料館、寿公園などが整えられた。一方、1989（平成元）年5月1日に鉄道が廃線となり、代替バスの運行が始まった。
- ▶ 2019（令和元）年、町開拓110年・町政施行70周年を迎えた。

3) 気候

～気温差60℃～

四季折々の景色を楽しむ豊富な行事

春 平野部から雪がなくなる4月中旬、酪農家がトラクターで肥料をまき始めます。

だんだん暖かくなってくると行者にんにくが芽吹き始め、タラの芽など山菜が収穫できるようになります。

桜はゴールデンウィーク頃に咲き、6月には鍾乳洞まつりが開催されます。

夏 まもなくしてピンネシリ岳で山開きが行われます。牧草地で採草が始まります。8月には夏の大イベント「北緯45度夏まつり」が開催されます。30℃を超える日もありますが、キャンプやバーベキュー、釣りなどアウトドアが楽しめます。

秋 暑さが落ち着く頃、牧草地では草の刈り取りが終盤を迎えます。森林が紅葉で彩り鮮やかになり、美しい風景が広がります。山にはキノコがはえ、川にはサクラマスが泳ぐ姿もみられます。

冬 ピンネシリ岳の峰に初雪が降り、例年11月中旬には平野部で積雪があります。寿スキー場でスキーやスノーボードを楽しむこともできます。1月末には、冬の大イベント「北緯45度しばれまつり」が開催され、雪像が立ち並ぶ中、かんじき

二人三脚などが楽しめます。オホーツク海に流氷が来る頃には氷点下30℃を下回る気温が観測されます。



4) 人口

人口減少の時代に、豊かさ・楽しさが凝縮した暮らしを

2015（平成27）年の中頓別町の年齢別人口構成比率は次の通りです。

【0～14歳の年少人口比率】

8.8%（全国12.6%）

【15～64歳の生産年齢人口比率】

51.0%（全国60.7%）

【65歳以上の老年人口比率】

37.8%（全国比26.6%）

2015（平成27）年以降、年少人口及び生産年齢人口は、同程度の割合で減少を続けています。老年人口は2010（平成22）年から緩やかに減少傾向に転じているが、2025（令和7）年には生産年齢人口を超え、最も多い人口構成区分となる見込みです。

表. 年齢3区分別人口の推移

	年少人口	生産年齢人口	老年人口
2000年	301	1,585	632
2005年	261	1,361	667
2010年	207	1,057	710
2015年	158	918	680
2020年（推計）	124	762	662
2025年（推計）	99	618	621
2030年（推計）	75	516	558
2035年（推計）	55	418	503
2040年（推計）	42	314	462
2045年（推計）	32	227	420



図. 年齢別人口構成の推移

表. 老年人口の将来推計

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
2020年(推計)	148	133	113	64	44	16
2030年(推計)	133	108	96	91	50	31
2040年(推計)	126	104	92	108	99	58
2050年(推計)	114	112	95	75	77	75
2060年(推計)	88	106	85	82	59	78

「自然増減（出生と死亡の差により生じる増減）」については、自然減の傾向が続いています。「社会増減（転入と転出の差により生じる増減）」についても転出超過の傾向です。

表. 出生・死亡数、転入・転出数

	総人口	転入	転出	出生	死亡	時点
1975年(昭和50年)	4,421	299	355	68	34	12月末
1990年(平成2年)	3,056	147	228	19	33	12月末
1995年(平成7年)	2,790	143	248	14	35	12月末
2000年(平成12年)	2,572	156	176	18	34	3月末
2005年(平成17年)	2,353	108	144	14	20	3月末
2010年(平成22年)	2,015	92	93	12	26	3月末
2015年(平成27年)	1,799	89	110	9	37	3月末

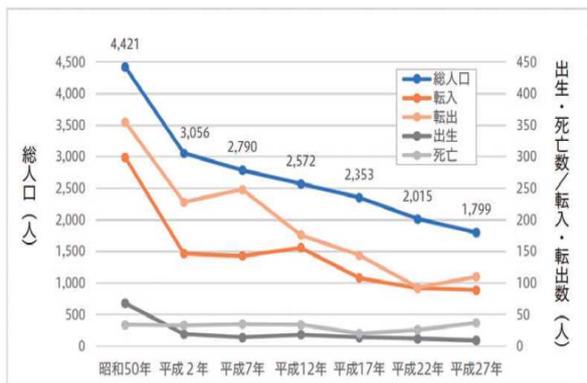


図. 出生・死亡数、転入・転出数の推移

5) 産業別人口

医療・福祉、農業が基幹産業

2015年の男女別では、男性で多い順に「農業」、「公務」、「医療・福祉」、女性で

は「医療・福祉」、「農業」、「卸売業・小売業」の順となっています。

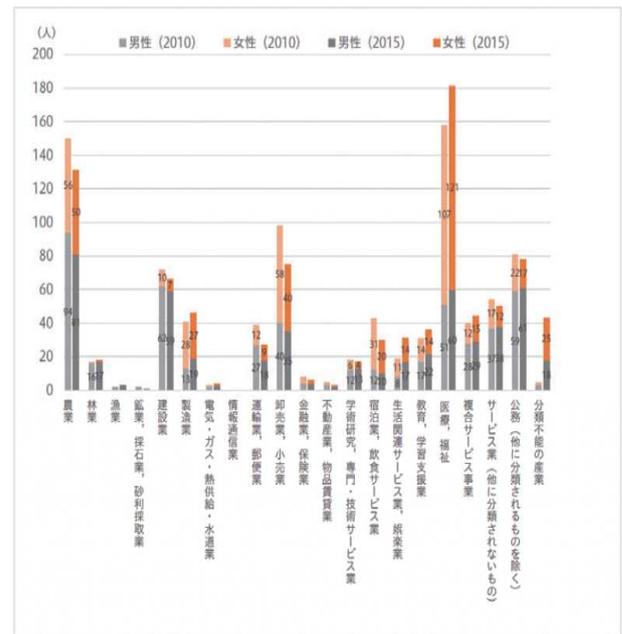


図3. 男女別産業就業人口

6) 交通

重要性が高まる新たな交通体系

中頓別町は、最も近い空港がある稚内市までは約100km、旭川市までは約170km、札幌市までは約310kmです。

1989(平成元)年に鉄道が廃線となり、地域を運行している路線バスは1路線のみです。

そのため、多くの町民が自家用車を保有していますが、高齢になると運転が難しくなる場合もあります。

そのため新たな交通体系の確保として、自家用車の乗り合いを実施するライドシェア事業に取り組んでいます。

表. 交通事情

種類	経路	1日の本数	時間
バス	旭川～鬼志別間	往復1本	4時間
	旭川～音威子府～小頓別～中頓別～浜頓別～鬼志別	往復2本	3時間30分
	旭川～枝幸間	往復2本	3時間30分
車	札幌～中頓別間		5時間
	旭川～中頓別間		3時間
空路	稚内～丘珠間	往復2本	50分
	稚内～千歳間	往復1本	60分
	稚内～東京間	往復1本	1時間45分
	旭川～東京間	往復5本	1時間35分
JR※	稚内～旭川間	往路3本	3時間40分
	稚内～札幌間	往復1本	5時間10分

※中頓別から電車を利用する場合は音威子府駅にて乗車